



かきぬいひがし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

今月の巻頭言

校長 松宮 孝明

「桜色は花びらの色ではない！

～言葉ってその人をあらわすんだなあ！～」

桜色の着物の写真を見せて、この色は何からとったものだと思いますかと聞かれたので、「当然、桜の花びらでしょ！」と答えたら、まちがいでした。花びらからではこの色はとれないそうです。

正解は、桜の木の皮をはいで煮出したものからとるそうです。焦げた、きたない茶色の樹皮から……。にわかには信じられませんでした。

その方に紹介してもらって、大岡 信氏の「ことばの力」という文章を読み進めましたら、染色家の志村ふくみさん（滋賀県出身の方だそうです。）の話として、桜色の話が出てきました。

それによりますと、花びらの色は、枝先のぽっと出てきた花のところだけで作られるのではなく、木の根元から、幹、枝、葉、すべてをとおして、絞り出してくるようになり出されるのだそうです。

そう言われてみれば、それも当然のような気がしてきました。

そして、大岡氏の文章は人が発する言葉について言及されていきます。

人が発する言葉も同じだよ。表面だけきれいな言葉、正しい言葉をしゃべろうと思っても、それはダメで、言葉は、その人の内側全部から絞り出されてくるんだからとのこと。

いやおうなしに、今まで生きてきた全部がにじみ出る。

まわりのすべての人やできごとなどの影響を受けて、にじみ出る。

そう言われてみれば、それも当然のような気がしてきました。

つまり、私たち大人も、自分の発する言葉の一つ一つを、そういうふうに考えないといけないし、接している子どもたちにも、表面的に、いい言葉を使いなさいといっけていてもダメで、その子の根元から、幹から、枝から、葉から、すべてをとおして絞り出してきた言葉が、相手を思いやるやさしい言葉になるよう教え導いていかなければならないんだなと感じ入りました。

すべての大人の責任ですね。

〔この話は、中学校の国語の教科書にも載っていたそうです。（今は載っていません。）〕

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校延長について

かねてより、草津市の HP や草津市からの一斉メール、本校からのプリントや一斉メール、HP 等でお知らせしておりますとおり、臨時休校が延びていて、各ご家庭にはご心配とご負担をおかけしています。

ただ、全国的な状況、京阪神に近い滋賀県南部の状況としては、まだ危機感を持って対応していかなければならない状況であると認識しております。何卒ご協力のほどお願いします。

学習の進捗についても、かねてお知らせしておりますとおり、本校では人と人が接しない最善策で、約1週間分をお渡しし、それまでにながらやってくれた分については回収して指導に活かさせていただきます。再開後に向けて、可能な限りの準備をしておりますので、何卒、ご理解とご協力をお願いします。

「4/23は子ども読書の日

～きみの一冊をさがそう！～

一年間、読書には親しんでほしいし、国語算数理科社会、各教科学習のベースとして文字活字に慣れ親しんでほしいと願っていますが、例年、全国的に4/23は「子ども読書の日」と制定されていますので、臨時休校のこんな時ですが、こんな時だからこそ、「本を読むこと」に注目していただきたいです。今年のポスターのキャッチフレーズは、「きみの一冊をさがそう」です。わが子がどんな本に興味を持っているのか、どんな本なら集中して長く読み続けるのかりサーチしてみてください。

笠縫東小：こころの教育コーナー

どんなこともまずはチャレンジ

「自分には限界があると思うと、成長できない！」

うまくいかないとき、「もうこれ以上できない」「自分にとってはこれが限界」と思ってしまえば、そこで成長が止まってしまうんだ。アドラーは、人が成長できなくなってしまうのは、「限界があるから」ではなく、「限界があると思ってしまうから」と言っているよ。限界というのは、もともときみの中にあるものではないんだ。「限界がある」と思ってしまえば、その気持ちこそが限界を作っているんだよ。

自分で限界を決めず、まだまだ、がんばれるという自信を持って成長しよう。

（超訳 こどもアドラーの言葉 齋藤 孝 著より）